

YAMAHA

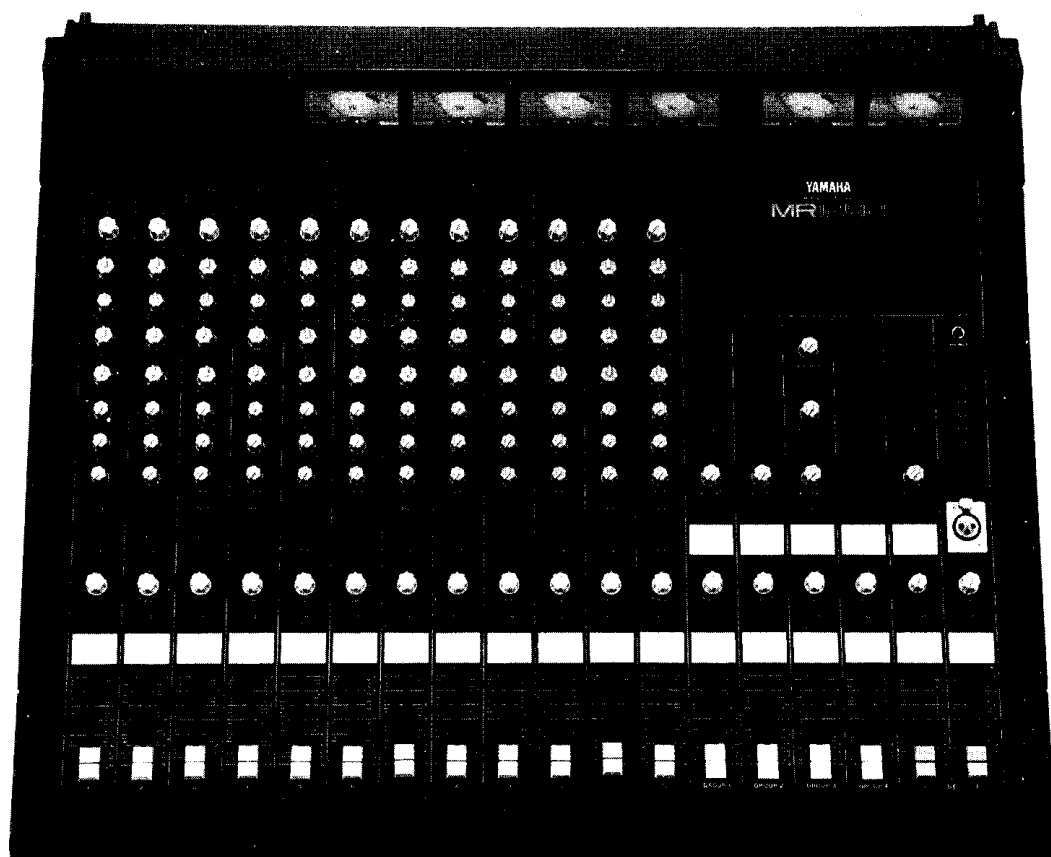
MR SERIES MIXING CONSOLE

MR842

MR1242

MR1642

取扱説明書



ごあいさつ

このたびは、YAMAHA MRシリーズミキシングコンソールをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

YAMAHAミキシングコンソールMRシリーズは、安定した性能と高信頼性を実現し、幅広い用途に対応する新しいタイプのミキサーです。

MRシリーズミキサーの性能をフルに発揮させると共に、いつまでも支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を是非お読みくださいますようお願いいたします。

★特 長★

- ①8チャンネルインプットのMR842、12チャンネルのMR1242、16チャンネルのMR1642と3タイプ。それぞれ仕様を統一し、必要なチャンネル数で選択していただけます。
- ②メイン出力は4chのグループ系と、グループをミックスする2chのステレオ系の2系統。マルチトラックテープデッキが使用できるテープ端子を装備しています。
- ③CUEロジックバスバーを採用し、モニター操作を簡単にしました。
- ④トークバック回路やピークインジケータ内蔵のVUメータも装備するなど幅広い応用性を持っています。レコーディングからSR、PA用ミキサーとしてお使いください。

目次

ご使用前の前に	1
仕様	2
コントロールパネル	
INPUT SECTION	3
AUX RETURN & GROUP OUT SECTIONS	6
AUX SEND & GROUP OUT SECTIONS	7
STEREO OUT, TALK BACK & MONITOR SECTIONS	8
VU METER SECTION	9
リアパネル	10
接続例	11
入・出力仕様	12
寸法図	12
ブロックダイアグラム	13
レベルダイアグラム	13
サービスについて	

ご使用の前に

■設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- ・直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど。
- ・温度の特に低い場所。
- ・湿気やホコリの多い場所。
- ・振動の多い場所。

■無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えることは避けてください。

■電源コードを大切に

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、コードをひっぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしてください。

◎本機は国内仕様です。必ずAC100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外<例えば200V>の電源には絶対に接続しないでください。

■セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

■接続について

接続は、各機器の電源スイッチをOFFにしてから行なうか、または各ボリュームを絞ってから行なってください。

■ケースを開けない

故障や感電の原因となりますので、ケースを開けたり改造しないようにしてください。

■外装のお手入れには

外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。お手入れには、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

■落雷に対する注意

落雷などの恐れがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

■保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合には実費をいただくこととなりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。

■保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

■XLRタイプコネクタについて

本機のXLRタイプコネクタは、DIN規格にもとづき配線されており、1番シールド（アース）、2番ホット、3番コールドの接続形式です。

《仕様》

周波数特性	20Hz~20kHz $\pm\frac{1}{3}$ dB (@600Ω、+4dB)
全高調波歪率	0.1%以下 (20Hz~20kHz) (@600Ω、+4dB)
ノイズレベル	
入力換算ノイズ	-128dB (Rs=150Ω)
残留ノイズ	-90dB
GROUP OUT	-73dB (77dB S/N) GROUP OUT Master fader →nominal All CH fader→minimum
GROUP OUT	-64dB (68dB S/N) GROUP OUT Master fader →nominal One input fader→nominal
AUX SEND	-68dB (72dB S/N) AUX SEND Master level control →nominal All CH mix level controls →minimum
AUX SEND	-64dB (68dB S/N) AUX SEND Master level control →nominal One CH mix level control →nominal

最大電圧利得

CH INPUT→GROUP OUT	84dB
CH INPUT→STEREO OUT	84dB
CH INPUT→AUX SEND1,2	94dB
CH INPUT→AUX SEND3	84dB
AUX RETURN1,2→GROUP OUT	20dB
SUB INPUT→GROUP OUT, AUX SEND1-3	10dB

クロストーク (1kHz)

Adjacent input CH	60dB
Input to Output	60dB
入力ゲインコントロール	40dB (-60~-20dB)
入力パッドスイッチ	0/20dBアッテネーション

イコライザー特性

HIGH	±15dB(10kHzシェルビング)
MIDDLE	±15dB(350Hz~5kHzピーキング)
LOW	±15dB(100Hzシェルビング)

VUメータ (0VU=+4dB)

STEREO L,R	
GROUP1~4/AUX1~3, CUE	

ピークインジケータ

INPUT (赤)	クリッピングの手前3dBで点灯
VU (赤)	0VUより10dB上で点灯

ファンタム電源

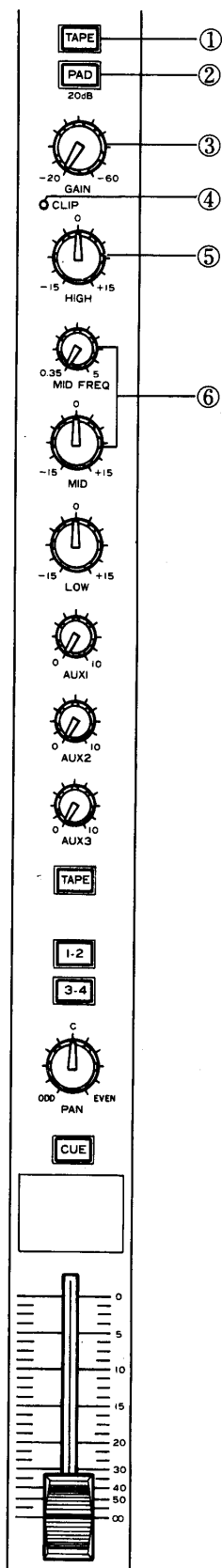
DC+48Vは、6.8kΩのアイソレーション抵抗を経て、給電されます。

定格電源電圧・周波数	AC100V, 50/60Hz
消費電力 [※]	
MR842	55W
MR1242	57W
MR1642	60W
寸法 (W×H×D)	
MR842	555×182×600mm
MR1242	695×182×600mm
MR1642	835×182×600mm
重量	
MR842	15kg
MR1242	18kg
MR1642	21kg

・仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

コントロールパネル 《INPUT SECTION》

＜インプットセクション＞



① TAPE (テープスイッチ)

リアパネルに接続されたテープデッキを選択するインプットスイッチです。OFF:□でマイクロホンまたはラインが選択され、ON:≡でテープが選択されます。

② PAD (アッテネータスイッチ)

マイクロホンまたはラインの入力信号が高すぎて③のゲインコントロールで調整しきれない場合にスイッチをON:≡にしますと、入力端子とヘッドアンプの間に-20dBの減衰量を持つパッドが入ります。

③ GAIN (ゲインコントロール)

入力信号が最適なレベルとなるように、ヘッドアンプの利得を調整します。④のPEAKインジケータが時々点灯し、⑤のチャンネルフェーダ目盛6の付近で使用できるようにこのゲインつまみを設定すると、S/N比とダイナミックレンジのバランスがとれた良好な状態で使用できます。

GAIN	INPUT SOURCE
-60~-50	ローレベルマイクロホン(ダイナミック型)
-35	ハイレベルマイクロホン(コンデンサー型)／電気・電子楽器
-20	ローレベルライン(一般オーディオ機器)／電気・電子楽器

④ CLIP (クリップインジケータ)

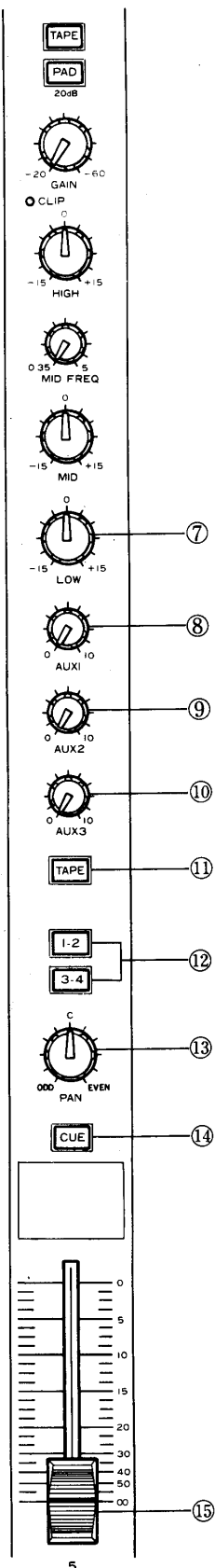
各インプットチャンネルのピークレベルを検出表示します。各チャンネル共にチャンネルフェーダの前(3バンドイコライザの後ろ)でレベルを検出し、クリッピングの3dB手前で点灯し、クリッピングレベルに近づいた事を表示します。このインジケータが時々点灯するように②、③で調整してください。頻繁に点灯する場合は、接続した機器の出力レベルを下げるか、または③のGAINコントロールつまみで調整してください。

⑤ HIGH (HIGHイコライザー)

各インプットチャンネルに入力された信号の高域の音質をコントロールできます。10kHzが基準周波数になっていますので、高域を最大±15dBの範囲でブーストまたはカットができるイコライザーです。つまみ位置センター [0] でフラットな特性となります。

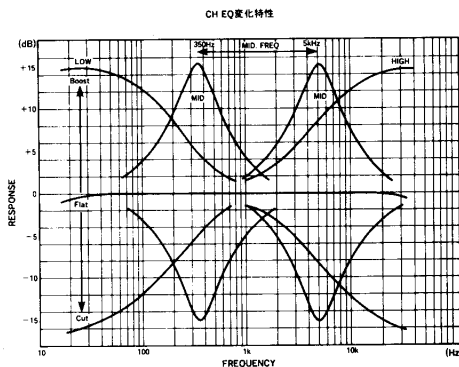
⑥ MID FREQ/MID (MID周波数コントロール/MIDイコライザー)

各インプットチャンネルの中域の音質をコントロールします。350Hz~5kHz内の中心周波数を最大±15dBの範囲でブーストまたはカットができるイコライザーです。MID FREQつまみでイコライジングさせたい周波数を設定し、MIDつまみで増減させます。MIDつまみ位置センター [0] でフラットな特性となります。



⑦ LOW (LOWイコライザー)

各入力チャンネルの低域の音質をコントロールできます。10kHzが基準周波数になっていますので、低域を最大±15dBの範囲でブーストまたはカットができるイコライザーです。ツマミ位置センター [0] でフラットな特性となります。



⑧ AUX1 (AUX1コントロール)

チャンネルフェーダー後の信号をAUX1バスへ送り出すレベルをコントロールします。ツマミ位置 [10] で最大送り出しレベルとなります。なお、イコライザーツマミやチャンネルフェーダー位置の変化により送り出しレベルも変化します。

⑨ AUX2 (AUX2コントロール)

チャンネルフェーダー後の信号をAUX2バスへ送り出すレベルをコントロールします。ツマミ位置 [10] で最大送り出しレベルとなります。なお、イコライザーツマミやチャンネルフェーダー位置の変化により送り出しレベルも変化します。

⑩ AUX3 (AUX3コントロール)

⑪のテープスイッチがOFFの時、チャンネルフェーダー前(イコライザーの前)の信号をAUX3バスへ送り出すレベルをコントロールします。⑪のテープスイッチがONの時、TAPE INされたテープの信号をAUX3バスへ送り出すレベルをコントロールします。ツマミ位置 [10] で最大送り出しレベルとなります。

⑪ TAPE (TAPE/PREスイッチ)

⑩のAUX3コントロールに送られる信号の切替スイッチです。PRE側OFF:□にすればマイク信号が、TAPE側ON:△にすればテープ信号がAUX3コントロールに送られます。

注) ⑪のテープスイッチがONの場合には、このスイッチがどちら側にあってもテープの信号のみとなります。


⑫ 1-2、3-4 (アサインスイッチ)

各入力チャンネルの信号をそれぞれグループ1~4のミックスバスに送り出すスイッチです。[1-2] スイッチがON:△状態でグループ1とグループ2のミックスバスが指定でき、[3-4] スイッチをONにすれば、グループ3、4のミックスが指定できます。

⑬ PAN (パンポット)

各インプットチャンネルの信号をアサインスイッチによって指定された各ミックスバスに送り出すレベルを振り分けるツマミです。すなわち、各インプットチャンネルの信号の音像をグループ1-2間および3-4間のどの位置に定位させるかを決定します。ツマミがセンター [C] 位置で音像が中央に定位し、ツマミが左いっぱい [ODD] 位置でグループ1またはグループ3の位置に、ツマミが右いっぱい [EVEN] の位置でグループ2またはグループ4の位置に各々音像が定位します。

⑭ CUE (キュースイッチ)

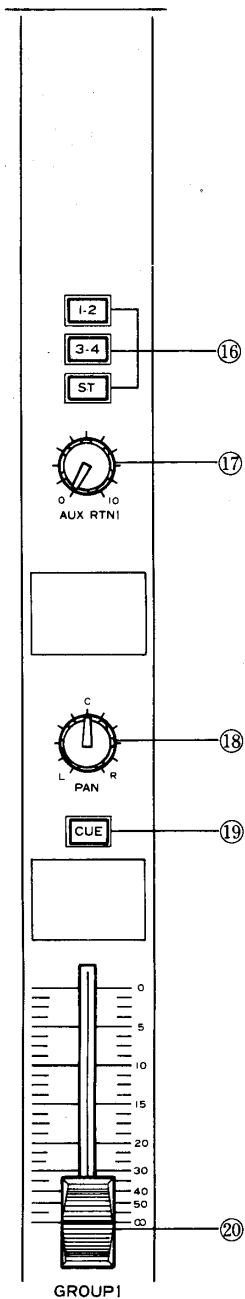
スイッチをON:  にすることにより、各インプットチャンネルフェーダーの前の信号状態をヘッドホン (モニター) およびレベルメーターで確認できます。なお、このスイッチに関する注意事項がありますので、モニターセクション (8ページの31) をお読みください。

⑮ CH FADER (チャンネルフェーダー)

各インプットチャンネルの信号のレベルをコントロールします。

《AUX RETURN & GROUP OUT SECTIONS》

《AUX RETURN & GROUP OUTセクション》



⑩ 1-2、3-4、ST (アサインスイッチ1-2、3-4、STEREO)

⑩のAUX RETURNコントロールでレベル調整された信号をこのスイッチでミックスバスを指定して送り出します。[1-2] スイッチON: でグループ1-2間に、[3-4] スイッチON: でグループ3-4間に、[ST] スイッチON: でステレオL-R間に送り出されます。

⑪ AUX RETURN1、2 (AUXリターン1、2コントロール)

AUX RETURN端子に接続された機器の入力レベルを調整します。なお、L、R共にひとつのつまみ (連動) で調整できます。

⑫ PAN (パンポット)

GROUP OUTの信号をステレオミックスバスに送り出すレベルを振り分けるつまみです。つまり、各グループの信号の音像をステレオのL、R間のどの位置に定位させるかを決定します。

⑬ CUE (キュースイッチ)

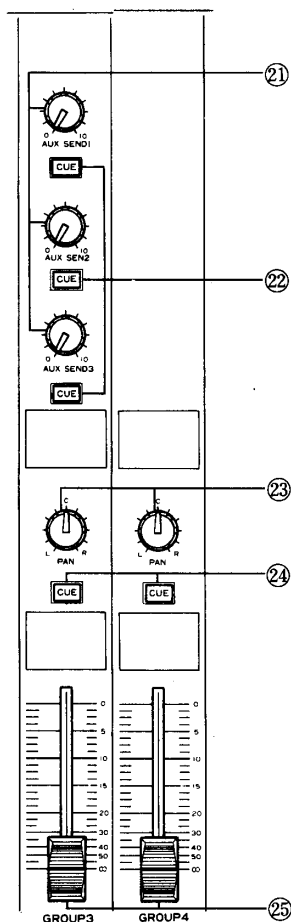
スイッチをON: にすることにより、各グループアウトフェーダーの前のミキシング信号状態をヘッドホン (モニター) で確認できます。なお、このスイッチに関しての注意がありますので、モニターセクション (8ページの31) をお読みください。

⑭ GROUP1、2 (グループ1、2マスターフェーダー)

インプット、AUXリターン、グループサブインの各セクションから入力され、グループミックスバスでミキシングされた信号を全体的にレベルを調整して、GROUP OUT端子1、2 (XLR-3-32) に送り出します。また、VUメーターによって出力レベルを監視することもできます。

《AUX SEND & GROUP OUT SECTIONS》


《AUX SEND & GROUP OUTセクション》



②① AUX SEND1~3 (AUX SENDマスターコントロール)

インプットチャンネルセクションより入力され、AUXミックスバスでミキシングされた信号を、全体的にレベルを調整してAUX SEND端子1~3に送り出します。また、VUメーターによって出力レベルを監視することもできます。


②② CUE (キュースイッチ)

スイッチをON:  にすることにより、各AUX SENDコントロールの前のミキシング信号状態をヘッドホン (モニター) で確認できます。なお、このスイッチに関するの注意がありますので、モニターセクション (8ページの31) をお読みください。

②③ PAN (パンポット) (①⑧と同じ)

GROUP OUTの信号をステレオミックスバスに送り出すレベルを振り分けるツマミです。つまり、各グループの信号の音像をステレオのL、R間のどの位置に定位させるかを決定します。

②④ CUE (キュースイッチ)

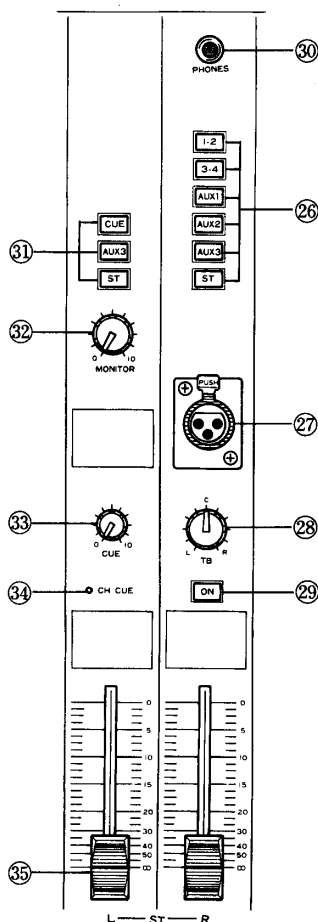
スイッチをON:  にすることにより、各グループアウトフェーダーの前のミキシング信号状態をヘッドホン (モニター) で確認できます。なお、このスイッチに関するの注意がありますので、モニターセクション (8ページの31) をお読みください。

②⑤ GROUP3、4 (グループ3、4マスターフェーダー)

インプット、AUXリターン、グループサブインの各セクションから入力され、グループミックスバスでミキシングされた信号を全体的にレベルを調整して、GROUP OUT端子3、4 (XLR-3-32) に送り出します。また、VUメーターによって出力レベルを監視することもできます。

《STEREO OUT, TALK BACK & MONITOR SECTIONS》

《STEREO OUT、TALK BACK & MONITORセクション》




- ②⑥ 1-2/3-4/AUX1/AUX2/AUX3/ST (アサインスイッチ)
トークバック用マイク信号の送出先(ミックスバス)を指定します。


スイッチ	送出先(ミックスバス)
1-2	グループ1とグループ2
3-4	グループ3とグループ4
AUX1	AUX1
AUX2	AUX2
AUX3	AUX3
ST	ステレオLとステレオR

- ②⑦ TALK BACK INPUT (トークバックインプット)
トークバック用のマイクロホンを接続します。規定入力レベルおよび適合インピーダンスは-50dB/50Ω~600Ωです。


- ②⑧ TB (トークバックレベルコントロール)
トークバック用マイク信号の送り出しレベルを調整します。

- ②⑨ ON (トークバックスイッチ)
このスイッチによりトークバック信号のON/OFFが可能です。スイッチON:  でトークバックマイクロホンでの通話ができます。

- ③⑩ PHONES (ステレオヘッドホン)
ステレオヘッドホンを接続し、CUE信号、AUX3出力信号、STEREO出力信号のモニターができます。

- ③⑪ CUE/AUX3/ST (モニターセレクトスイッチ)
ヘッドホンおよびモニターアウトを使用して、モニターをする場合のセレクトスイッチです。AUX3はレコーディング時のオーバーダビング等のモニター信号として使用すると便利です。AUX3、STは、それぞれON:  にすることによりポストフェーダーの信号状態が確認できますが、CUEについては、下記の注意をお読みください。

◆CUEについてのご注意◆

モニターセレクトスイッチのCUEスイッチがON:  の場合は、他セクションのCUEスイッチがONになっているチャンネルをモニターできますが、CUEには優先順位があり、MASTER部のCUE SWがONされていてもCHのCUEがONされるとMASTER部のCUE信号は出力されずCHのCUE信号のみをヘッドホン及びモニターアウトに出力します。又、CH CUEをOFFしますと自動的にMASTER部のCUE信号に切り替わります。

- ③⑫ MONITOR (モニターレベルコントロール)
ヘッドホンの音量レベルと、モニターアウト端子の出力レベルを調整します。

③③ CUE (キューレベルコントロール)

モニタースイッチ①がCUEポジションにある時の全体的なキューレベルを調整します。

③②のつまみと併用してレベルをコントロールしてください。なお、このつまみはメーターレベルには関係ありません。

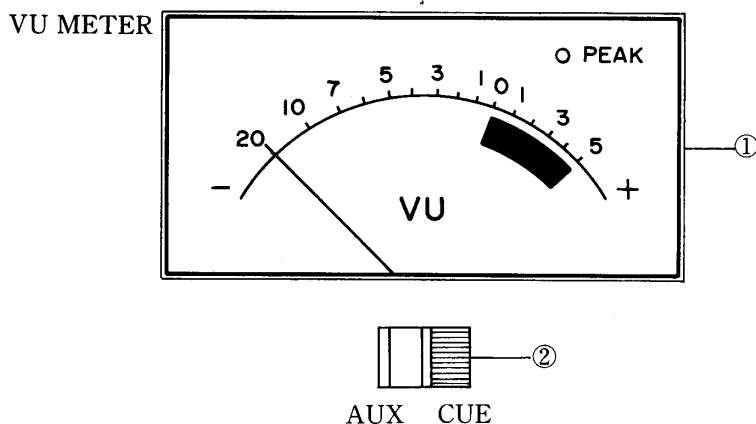
③④ CUE (キューインジケーター)

CH CUEがONされていることを示すインジケーターです。従って、この状態でMASTER部のCUEをONされてもヘッドホン及びモニターアウトへの信号は出力されません。CHのCUE信号のみが出力されます。

③⑤ ST L/R (ステレオマスターフェーダー)

AUX RETURN、STEREO SUB INの各セクションから入力され、ステレオミックスバスでミキシングされた信号を、全体的にレベル調整してステレオアウト端子に送り出します。なお、VUメーターで出力レベルを監視することができます。

《VUセクション》



① VUメーター

PEAKインジケーター内蔵のVUメーターです。

GROUP1~4、AUX1~3、CUE、STEREO L・Rの出力レベルを監視し、VUメーターの指示が0VUの時、各出力には規定出力が得られます。

PEAKインジケーターは0VUより10dB上で点灯します。

VUメーター指示	-20VU	-10VU	-5VU	0VU	+3VU
	-16dB (123mV)	-6dB (388mV)	-1dB (691mV)	+4dB (1.23V)	+7dB (1.74V)

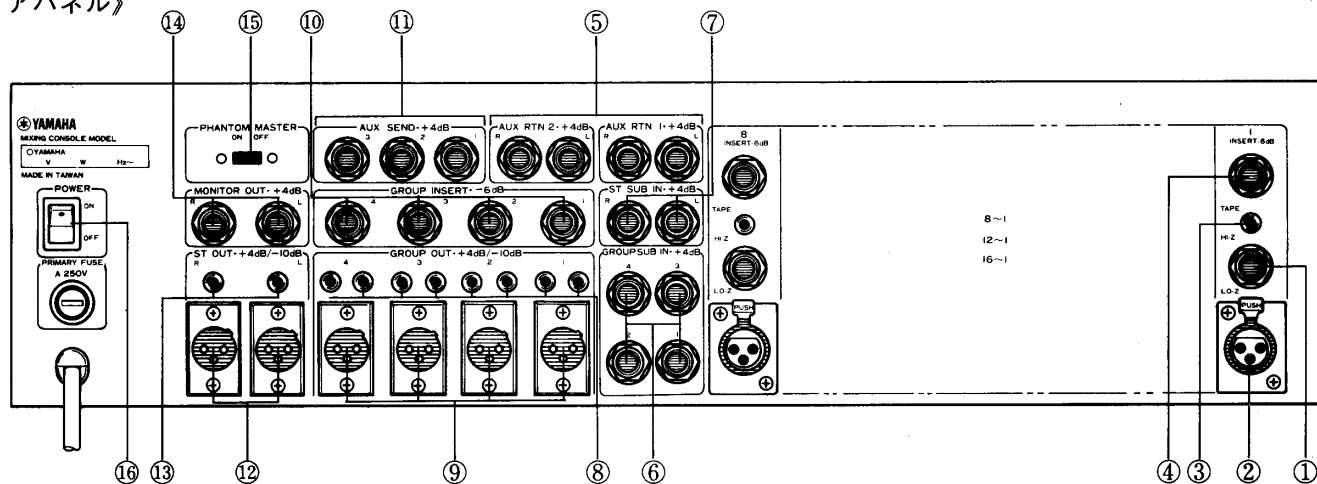
② メーターファンクションスイッチ

GROUP/AUXおよびGROUP/CUEのVUメーターは兼用メーターになっています。

VUメーターの指示をこのスイッチで選択してください。

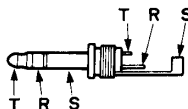
《リアパネル》

《リアパネル》



① CH INPUT

各チャンネルのHI-Z(ハイインピーダンス)入力端子です。平衡(バランス)入力ですので、TRSホーンジャックの接続は次のようになります。



T:+ (ホット)
R:- (コールド)
S:GND (グラウンド)

注) HI-Z、LO-Zの同時使用はできません。HI-Zの入力端子にプラグを挿入するとLO-Zは自動的に切れます。

② CH INPUT

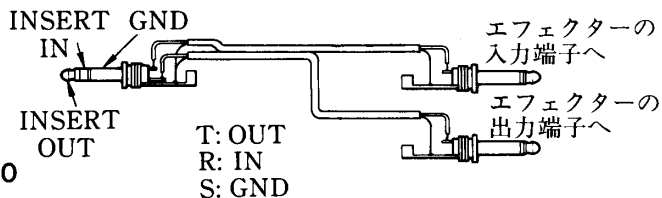
各チャンネルのLO-Z(ローインピーダンス)入力端子です。XLR-3-31タイプの平衡入力です。なお、本体内蔵のファンタム電源により、外部電源使用のコンデンサーマイクロホンが使用できます

③ TAPE (テープ入力)

マルチトラックレコーダーの再生信号を入力するための端子です。マルチトラックレコーダーを再生(ミックスダウン、ピンポン録音など)する時は、入力するチャンネルのTAPEスイッチをONポジションにして、各ツマミで音質やレベルを調整します。規定入力レベルは-10dBです。

④ CH INSERT IN/OUT · -6dB

インプットセクションのヘッドアンプと3バンドイコライザーの間に設けられた不平衡(アンバランス)型入・出力端子です。入力端子として使用する場合、-6dB/600Ωラインに対応し、出力端子として使用する場合、-6dB/10kΩラインの機器に対応します。あらゆる使用方法が可能な端子です。TRSホーンジャックの接続は次のようになります。



⑤ AUX RETURN L · R / +4dB

ディレイやリバーブマシンなどのシグナルプロセッサのリターン及び録音時の2トラックテープのプレイバック信号を受けるアンバランス型入力端子です。規定入力レベル/インピーダンスは+4dB/600Ωラインです。

⑥、⑦ SUB IN (GROUP1~4/STEREO L · R)

チャンネル増設用のサブミキサーからの入力端子です。アンバランス型モノラルホーンジャックの入力端子です。規定入力レベル/インピーダンスは+4dB/600Ωラインに対応します。

⑧ GROUP OUT · -10dB

RCAピンジャックタイプのグループアウト端子です。マルチトラックレコーダーの録音出力端子として使用できます。規定出力レベル/インピーダンスは、-10dB/10kΩラインに対応します。なお、ピンジャックは2個ありますが、同一信号を出力します。

⑨ GROUP OUT · +4dB

メインスピーカーを駆動するメインのパワーアンプやレコーディング用のテープデッキを接続するバランス型XLR-3-32タイプのグループ出力端子です。規定出力レベル/インピーダンスは、+4dB/600Ωラインに対応します。

⑩ GROUP INSERT IN/OUT · -6dB

グループミックスバスとグループマスターフェーダーの間に設けられたアンバランス型ステレオホーンジャックの入・出力端子です。入力端子として使用する場合、-6dB/600Ωのラインに対応し、出力端子として使用する場合、-6dB/10kΩラインの機器に対応します。あらゆる使用方法が可能な端子です。TRSホーンジャックの接続は、CH INSERT IN/OUTと同じです。

⑪ AUX SEND1~3・+4dB

ディレイやリバーブマシンなどのシグナルプロセッサー及び演奏者へのフォールドバックへ信号を送り出すアンバランス型モノラルホンジャックの出力端子です。規定出力レベル/インピーダンスは、+4dB/600Ωラインに対応します。

⑫ STEREO OUT L/R・+4dB

メインスピーカーを駆動するパワーアンプを接続するXLR-3-32タイプのバランス型出力端子です。規定出力レベル/インピーダンスは、+4dB/600Ωラインに対応します。

⑬ STEREO OUT L/R・-10dB

レコーディング用ステレオテープデッキ等の録音出力端子として使用します。規定出力レベル/インピーダンスは、-10dB/10kΩラインに対応したRCAピンジャックタイプのアンバランス型出力端子です。

⑭ MONITOR OUR L/R・+4dB

モニター用の出力端子です。モニタースピーカーを駆動するパワーアンプに接続してください。アンバランス型ホンジャックの出力端子です。規定出力レベル/インピーダンスは、+4dB/10kΩラインに対応します。

⑮ PHANTOM MASTER (ファンタムスイッチ)

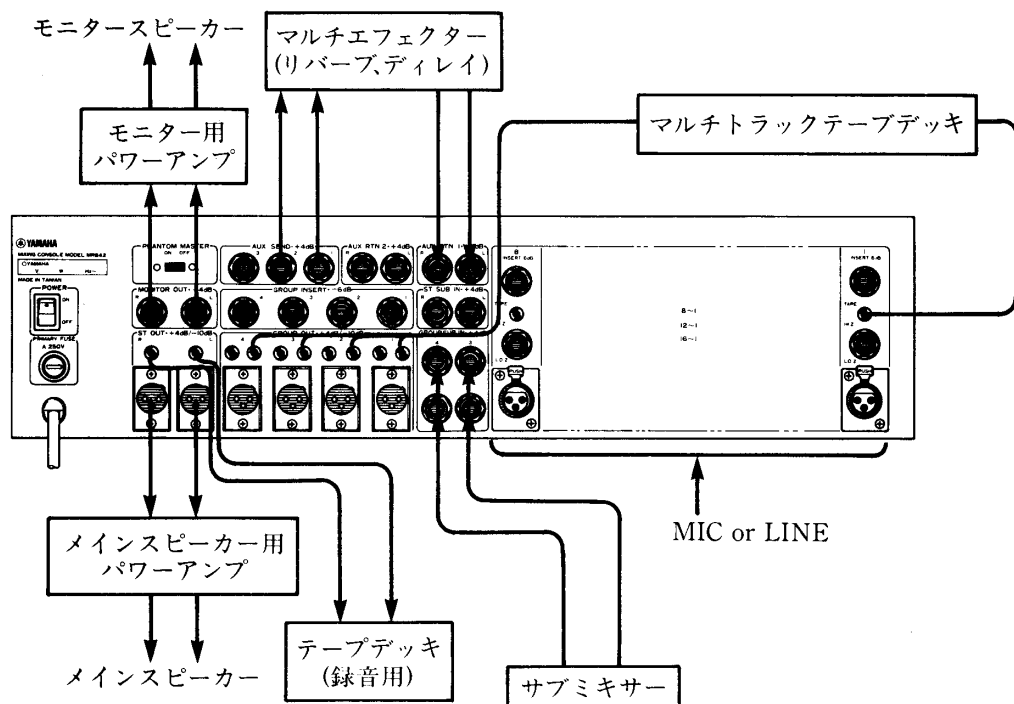
ファンタム電源を全チャンネルまとめてON/OFFするスイッチです。スイッチを[ON]にするとINPUTコネクター2・3番ピンにDC+48Vを供給します。使用しない場合は、必ずOFF側にしてください。なお、HI-Z端子には、ファンタム電源は供給されません。

※スイッチONの状態でもバランス型ダイナミックマイクロホンやLINEを接続してもさしつかえありませんが、アンバランス回路やトランスのセンターがアースされている回路などを接続しますと、ハムや故障の原因となります。

⑯ POWER (パワースイッチ)

ONにするとパワーが入り、VUメーターの照明が点灯します。

《接続例》



《入・出力仕様》

■入力仕様

Input Terminals	PAD	Gain Trim	Actual Load Impedance	For Use With Nominal	Input Level			Connector In Mixer
					Sensitivity	Nominal	Max. befor clip	
CH Input ※ Lo-Z Hi-Z	0	-60	Lo-Z= 3k Ω	50~600 Ω Mics	-80dB(0.08mV)	-60dB(0.8mV)	-34dB(15.5mV)	XLR-3-31 type &
	0	-20	Hi-Z=10k Ω	&	-40dB(7.75mV)	-20dB(77.5mV)	+ 6dB(1.55V)	
	20			600 Ω Lines	-20dB(77.5mV)	0dB(775mV)	+20dB(7.75V)	Phone Jack(TRS)
TAPE IN			10k Ω	600 Ω Lines	-30dB(24.5mV)	-10dB(245mV)	+20dB(7.75V)	RCA Pin Jack
AUX RETURN (1,2) stereo			10k Ω	600 Ω Lines	-16dB(123mV)	+ 4dB(1.23V)	---	Phone Jack
INSERT IN CH(1-※)			10k Ω	600 Ω Lines	-26dB(38.8mV)	- 6dB(388mV)	+20dB(7.75V)	Phone Jack(TRS)
GROUP(1-4)			10k Ω	600 Ω Lines	-16dB(123mV)	- 6dB(388mV)	+20dB(7.75V)	Phone Jack(TRS)
SUB IN GROUP(1-4) STEREO(L,R)			10k Ω	600 Ω Lines	- 6dB(388mV)	+ 4dB(1.23V)	+20dB(7.75V)	Phone Jack
TALK BACK IN			4k Ω	50~600 Ω Mics	-70dB(0.25mV)	-50dB(2.45mV)	-24dB(48.9mV)	XLR-3-31 type

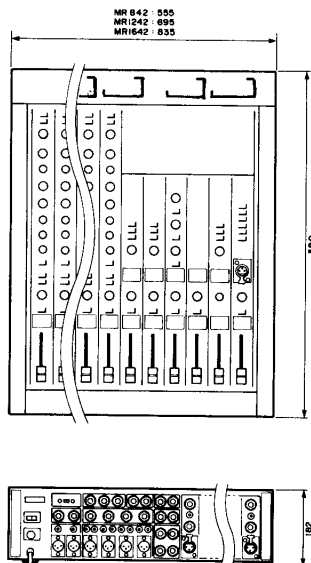
- CH XLRタイプコネクタ及びPhone Jackはバランス型です(T=+, R=-, S=GND)。
他のPhone Jack及びRCA Pin Jack、INSERT Phone Jackはアンバランス型です(T=OUT, R=IN, S=GND)。
TALK BACK IN XLRタイプコネクタはアンバランス型です。
- 0dB=0.775V RMS
- ※CH INPUTナンバーは、MR842=8CH、MR1284=12CH、MR1642=16CHです。

■出力仕様

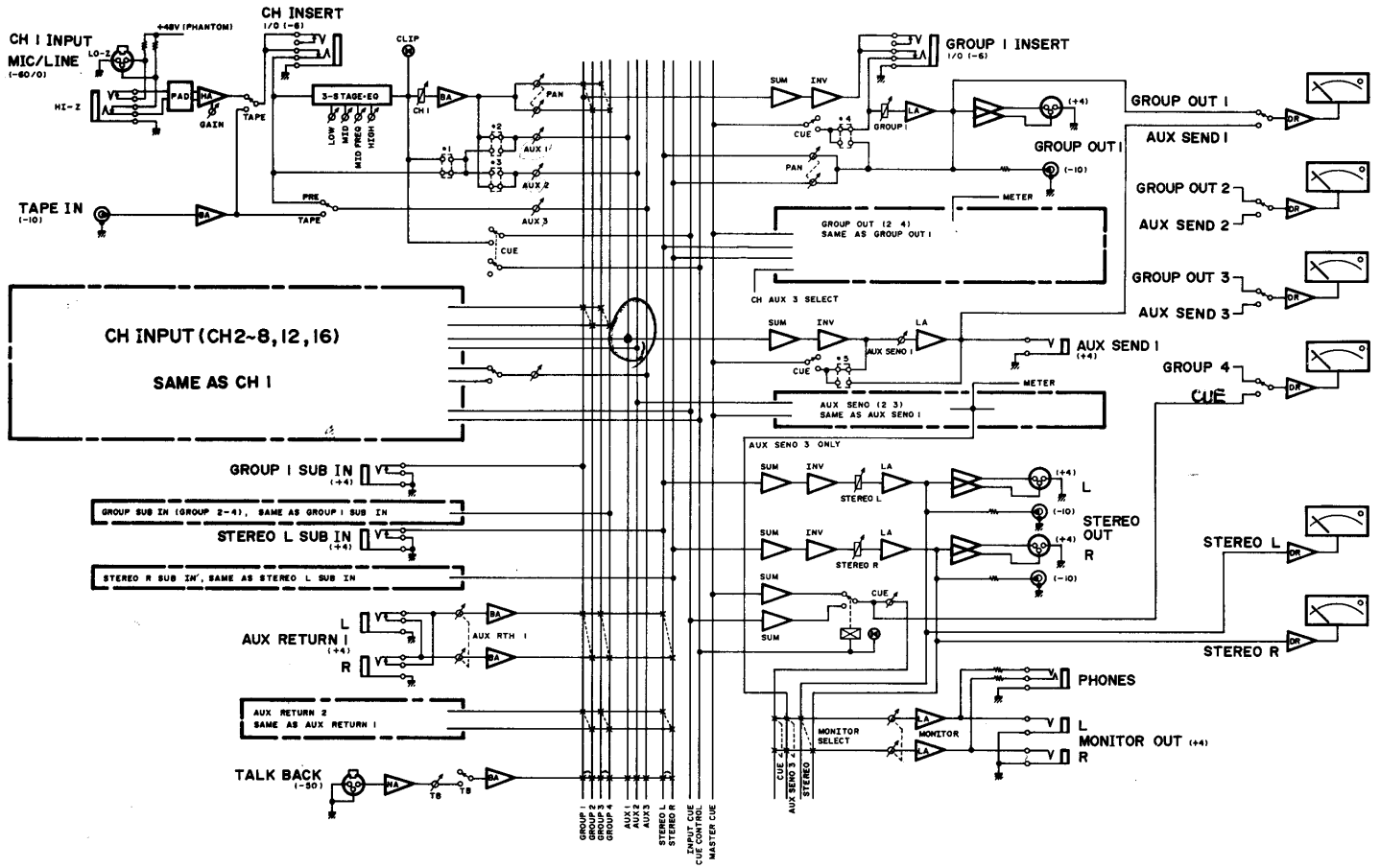
Output Terminals	Actual Source Impedance	For Use With Nominal	Output Level		Connector In Mixer
			Nominal	Max. befor clip	
GROUP OUT(1-4)	150 Ω	600 Ω Lines	+ 4dB(1.23V)	+24dB(12.3V)	XLR-3-32 type
	600 Ω	10k Ω Lines	-10dB(388mV)	+10dB(3.88V)	RCA Pin Jack×2
STEREO OUT(L,R)	150 Ω	600 Ω Lines	+ 4dB(1.23V)	+24dB(12.3V)	XLR-3-32 type
	600 Ω	10k Ω Lines	-10dB(388mV)	+10dB(3.88V)	RCA Pin Jack
AUX SEND (1-3)	150 Ω	600 Ω Lines	+ 4dB(1.23V)	+20dB(7.75V)	Phone Jack
INSERT OUT CH(1-※) GROUP(1-4)	600 Ω	10k Ω Lines	- 6dB(388mV)	+20dB(7.75V)	Phone Jack(TRS)
MONITOR OUT(L,R)	600 Ω	10k Ω Lines	+ 4dB(1.23V)	+20dB(12.3V)	Phone Jack
PHONE OUT	100 Ω	8 Ω phones	1mW	20mW	STEREO
		40 Ω phones	3mW	130mW	Phone Jack

- XLRタイプコネクタはバランス型、Phone Jack、RCA Pin Jackはアンバランス型です。INSERT Phone Jack(T=OUT,R=IN,S=GND)
- 0dB=0.775V RMS
- ※CHナンバーは、MR842=8チャンネル、MR1242=12チャンネル、MR1642=16チャンネルです。

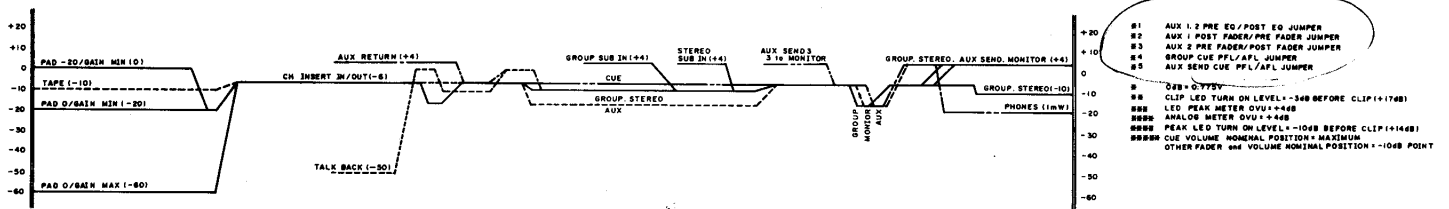
《寸法図》



《ブロックダイアグラム》



《レベルダイアグラム》



《サービスについて》

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまにご購入の日から向こう1ヶ年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂たく場合もあります。またお買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続いたします。

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明の点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(お預り修理窓口)

東京電音サービスセンター 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL (044)434-3100

新潟電音サービスステーション 〒950 新潟市万代1-4-8(シルバーボールビル2F)
TEL (025)243-4321

大阪電音サービスセンター 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)
TEL (06)877-5262

四国電音サービスステーション 〒760 高松市丸亀町8-7(ヤマハ高松店内)
TEL (0878)51-7777, 22-3045

名古屋電音サービスセンター 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
(ヤマハ名古屋流通センター3F)
TEL (052)652-2230

九州電音サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092)472-2134

北海道電音サービスセンター 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目
(ヤマハセンター内)
TEL (011)513-5036

仙台電音サービスセンター 〒983 仙台市卸町5丁目7(卸商共同配送センター3F)
TEL (022)236-0249

広島電音サービスセンター 〒731-01 広島市安佐南区紙屋町西原2-27-39
TEL (082)874-3787

浜松電音サービスセンター 〒435 浜松市上西町911
TEL (0534)65-6711

本社
電音サービス部 〒435 浜松市上西町911
TEL (0534)65-1158

ヤマハ株式会社音響システム事業部
音響システム事業部 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(60)2493

国内営業部 〒150 渋谷区道玄坂2-10-7新大栄ビル3F
TEL. 03(476)1521

東京営業所 〒104 東京都中央区銀座7-11-3矢島ビル
TEL. 03(574)8592

大阪営業所 〒542 大阪市南区南船場3-12-9
心斎橋プラザ東館
TEL. 06(252)5231

名古屋営業所 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5145

九州営業所 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2155

札幌営業所 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目ヤマハセンター
TEL. 011(512)6113

仙台営業所 〒980 仙台市大町2-2-10
TEL. 022(222)6146

広島営業所 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL. 082(244)3744